



稚魚を放流する園児

平滝沼にフナの稚魚を放流

9月20日、かしわこども園（佐藤修子園長）とかしわあつぷるこども園（山崎笑子園長）の年長児27人が平滝沼にフナの稚魚を放流しました。これは、子どもたちに自然や魚に触れながら生態系保全の大切さを学んでもらおうと、西津軽新田漁業協同組合（伊藤良二代表理事組合長）が実施しているもので、この日は4000尾のマブナが放されました。

水辺に一列に並んだ園児は、バケツに入った稚魚に「大きくなってね」と声を掛けながらゆっくり放流。元気に泳いでいく魚の様子を笑顔で見送りました。近藤大虎くん（かしわあつぷるこども園・5歳）は「魚がかわいくて楽しかった。大きくなってほしい」と話していました。

市内小中学校で「あいさつ運動」

9月21日、市内の各小中学校で一斉に「あいさつ運動」が行われました。これは、あいさつの大切さを再認識し、子どもたちの登校時の様子を知る良い機会にしようと、市連合PTA（秋田谷建幸会長）が主催したものです。

この日、木造地区の向陽小と木造中付近では、校門や玄関、学校近くの交差点にPTA会員や生徒ら約50人が並び、登校する児童生徒と気持ちのいいあいさつを交わしていました。

参加した野呂淳悦さん（木造中PTA会長）は「朝から元気な生徒も寝起きで元気がない生徒も、今日大勢であいさつ交わしたことで、その大切さを感じてもらえたと思う。今後も力を入れていきたい」と話していました。



元気にあいさつを交わす木造中の生徒たち



ヨガで汗を流す参加者

生きる力・きずなを感じ交流

西北五地区精神障害者家族学習交流会が9月29日、松の館で開催され、約140人の参加者が親睦を深めました。

はじめに交流会の小鷹義昭実行委員長（木馬の会会長）が「今日一日、最後まで楽しい時間を過ごしてください」とあいさつ。NPO法人青森県障害者スポーツ協会の野澤英二理事を講師に迎え「生きる力・きずな」と題し講演したあと、午後にはグループに分かれて、話し合いやヨガを体験。ヨガグループでは高橋愛子インストラクターを講師に迎え、イスを使ったゆったりヨガで体をほぐしました。ヨガを終えた参加者たちは「体がぽかぽかして温くなった」「難しいと思ったけど、簡単にできた」と感想を話し、心地よい汗を流していました。

中学校男子ハードル県大会で優勝

8月27日に弘前市運動公園陸上競技場で開催されたジュニアオリンピック青森県予選会で、佐藤亮輔君（木造中）が中学2年男子110㍓ハードル（0.914㍓）で優勝し、10月28日から神奈川県で開催される全国大会への切符を手に入れました。

10月3日、市役所を訪れた佐藤君らは、県予選会優勝の喜びと全国大会へ向けた抱負を市長に報告。佐藤君は「グラウンドや道具、先生方に感謝し、大会では自己ベストを更新して準決勝進出を目指します」と意気込みを語りました。

福島市長は「大会までの期間、監督の指導をよく聞いて練習し、全国の強豪を相手にがんばってください」と激励していました。



優勝を報告した佐藤亮輔君（中央）

認知症を理解し地域で支えよう

認知症サポーター養成講座が10月12日、13日、松の館で行われ、郵便局つがる部会のメンバーら48人が参加しました。

いまや老後最大の不安となった認知症は、超高齢社会を突き進む日本にとって深刻な問題となっています。市では、専門の研修を受けた講師（キャラバンメイト）54人が、認知症の人やその家族を支援する「認知症サポーター」を養成するための活動を展開。今回の講座では、7人のキャラバンメイトが講義や寸劇などで、病気に関する正しい知識や温かい接し方などについて、丁寧に説明しました。参加者した男性は「ゆっくりやさしく接すること、正面から声がけすることなど参考にして、普段の仕事に生かしたい」と話していました。



寸劇「ハンコがない!」を演じるキャラバンメイト



作文を発表する北澤優希さん（車力中2年）

みんなで支える地域づくりを推進

「ひとり一人を大切にした福祉のまちづくり」をテーマに10月10日、第12回つがる市社会福祉大会が松の館で開催され、市民ら約250人が参加しました。

大会では市内の小中学生6人が「福祉の作文」を発表。自分から行動することや言葉にすることの大切さなど、自身の体験から学び感じたことを集まった聴衆に伝えました。

主催者の市社会福祉協議会・平川満昭会長は「関係機関との連携を密にし、社会情勢や住民ニーズの変化に応じた地域福祉活動を推進していきます」とあいさつ。続いて地域福祉の向上などに貢献した26人、11団体に対して、平川会長から表彰状および感謝状が手渡されました。

火災発生予防を普及啓発 秋の火災予防運動

「消しましょう その日その時 その場所で」をスローガンに、秋の火災予防運動（10月17日～23日）のパレード出動式が10月17日、松の館駐車場で行われました

式には消防団員64人、消防車両24台が集まり、福島市長が「火災の発生しやすい時期を迎えます。巡回だけでなく、日頃から地域住民への火災予防啓発も積極的に行ってください」とあいさつ。続いて箱田鐵雄消防団長が「火災予防の呼び掛けを強化し、事故の無いようパトロールに努めてもらいたい」と訓示しました。

式終了後、団員らは市内各地をパレードし、火災発生予防を呼び掛けました。



一斉にパレードへ出発する消防車両



清掃活動に励む会員の皆さん

シルバー人材センターが清掃奉仕

10月19日、シルバー人材センター事業普及啓発促進月間の一環として、市シルバー人材センター（吉田謹治理事長）の会員ら67人が、市役所通りの歩道など約5キロメートルにわたり清掃奉仕活動をおこないました。

この日、会員らはスコップなどを使って道路脇や歩道の側溝にたまった土砂や草、枯れ葉などをきれいに除去。土のう袋120袋分を回収し、環境美化に努めました。

参加者は「町がきれいになり、地域に貢献もできてうれしい。これからも続けていきたい」と話し、秋晴れのもと心地よい汗を流していました。